

この時期になると、脱皮を繰り返してきた「バッタ」や「イナゴ」の中には、もうりっぱな成虫の姿になっている個体も見られるようになりました。

そして、まだまだ「小さい」と思っていた「ナナフシ」も、その見事な成長ぶりに驚かされたのです…

さて、大きく成長したナナフシ、動きも少しは活発になったのでしょうか…
いえいえ、どちらかと言うと幼虫のときよりも動かなくなったみたいです。

我が身を守るために「**隠蔽的擬態**」に徹しているんでしょうね。

◆写真①： エダナナフシ

◇「ナナフシ」(ナナフシモドキ)と「エダナナフシ」はそっくりですが、触角の長さは大きく異なります。

◇この個体は触角が長いので「エダナナフシ」でしょう。

◇ナナフシの英名は「**ウォーキング・スティック**」、つまり「歩く枝」です。
和名は「七つの関節」といったところでしょうか。

◇前脚の内側がへっこんでいるので、写真のように前脚を伸ばすと、その“へこみ”に頭がすっぽりと収まるようで、動かなければ見つけることは至難の業です…

◇動いてもその速さは超スローですので、外敵に襲われた場合、あきらめるしかないのでしょうか？

◇そこで「ナナフシ」の採用した“生存のための”作戦は、徹底的に枝葉に**擬態**して見つからないようにすること、

見つかった場合は、脚をピンと伸ばしてそのまま地上へ落ちていくこと、です…

◇ちなみに、ナナフシが交尾している姿を見たことはありませんが、やはりこれだけ移動が苦手であれば“出会い”の可能性も極めて低くなります。

これでは、子孫繁栄が危機です！

◇そこで「ナナフシ」の採用した戦略は「**単為生殖**」です。

野外で見つかる「ナナフシ」の殆どすべては「メス」ばかりなのです。

◆写真②： 脱皮した抜け殻…

◇形状からして、おそらく「ナナフシ」のものだと思います。

◆写真③： 少しカラフルな個体

◇よく見られる薄緑色の単色ではなく、茶色っぽい部分も多い“お洒落”な個体です。

◆写真④～⑥： 大きなエダナナフシ

◇結構大きな個体を見つけました。(移動していると見つけやすいです) ※写真④

◇顔の“接写”を試みました。 ※写真⑤

◇危険を感じたのか、前脚を伸ばして“枝”に擬態！ ※写真⑥











